

# 令和6年度 築港中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪府教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

## 2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

## 3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

## 4 「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の調査の目的

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

# 令和6年度 築港中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

## 1 全国学力・学習状況調査

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
実施月日			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	12	56	46	1.7	10.1
	大阪市	—	56	51	4.1	12.5
4月18日	全国	—	58.1	52.5	3.9	11.3

## 2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
実施月日			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3 年	学校	11	66.9	48.9	44.8	53.7	60.3	2.3	3.2	11.6	1.8	2.6
	大阪市	—	65.4	50.2	48.8	53.1	54.0	4.9	4.7	14.3	4.3	6.5
9月3日	大阪府	—	65.2	50.4	49.1	52.4	53.6	5.3	5.0	14.8	5.0	6.9
2 年	学校	20	65.2	45.4	52.5	51.1	51.4	4.8	2.4	2.2	2.5	3.3
	大阪市	—	66.1	49.9	51.4	49.5	54.6	8.4	4.6	8.2	6.1	7.0
1月9日	大阪府	—	65.5	49.5	50.7	47.2	54.0	9.3	5.2	9.5	7.4	7.9
1 年	学校	17	62.6	53.9	48.9	55.5	59.8	6.0	4.1	7.0	3.3	4.7
	大阪市	—	59.0	53.7	50.5	55.6	62.1	8.3	5.5	7.4	4.2	4.9
1月9日	大阪府	—	58.5	—	49.8	—	61.5	9.4	—	8.8	—	5.8

- ※ 1年生の社会・理科については、「大阪市版チャレンジテストplus」として実施  
 ※ 1年生の理科は物理的領域を選択  
 ※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択  
 ※ 3年生の理科はB問題を選択

## 3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】 (スコア)	聞くこと 【リスニング】 (スコア)	書くこと 【ライティング】 (スコア)	話すこと 【スピーキング】 (スコア)
実施月日						
3 年	学校	10	106.0	111.5	163.1	108.7
10月18日	大阪市	—	105.7	104.6	149.6	102.1

## 4 全国体力・運動能力、運動習慣等調査

学年	生徒数 (人)	握力 (kg)	上体 起こし (数)	長座 体前屈 (cm)	反復 横とび (点)	20m シャトル ラン (回)	持久走 男子1500m 女子1000m (秒)	50m走 (秒)	立ち 幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	体力 合計点 (点)
	18										
2 年 男 子	学校	24.09	20.73	40.55	49.64	79.91		8.29	183.64	18.00	34.70
	大阪市	28.38	26.42	42.74	51.50	79.76		8.08	194.64	19.84	41.10
	全 国	28.95	25.94	44.47	51.51	78.98		7.99	197.18	20.57	41.86
2 年 女 子	学校	25.14	23.00	48.14	54.00	60.71		8.59	171.43	17.43	56.43
	大阪市	22.99	22.21	45.64	45.86	52.98		9.01	167.01	12.04	47.51
	全 国	23.18	21.56	46.47	45.65	50.67		8.96	166.32	12.40	47.37

調査結果から

【成果と課題】

○全国学力・学習状況調査

＜国語＞ 全国と比較して、「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」の領域において、上回ることができた。一方、「言語の特徴や使い方に関する事項」「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」の領域において下回った。

＜数学＞ 全国と比較して、「数と式」の領域において、上回ることができた。「図形」「関数」「データの活用」の領域においては、下回った。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜成果＞

国語・理科・英語の平均点は、大阪府・大阪市と比較して上回った。特に、英語科では、6点以上上回る結果を残せた。社会・数学の平均点は、大阪府・大阪市の平均点を下回る結果となったが、無解答率では、5教科とも大阪府・大阪市の平均無解答率を下回り、わからない問題もあきらめず解答しているといえる。

＜課題＞

国語では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」「記述式」で課題がある。

社会では、「記述式」を除き、すべての領域・観点・問題形式において課題がある。

数学では、「記述式」で大阪府平均と並んだ他は、すべての領域・観点・問題形式において課題がある。

理科では、「粒子」の領域・「知識・技能」の観点において課題がある。

英語では、すべての領域・観点・問題形式において、大阪府平均を上回ることができた。

○中学生チャレンジテスト(2年生)

＜成果＞

数学科と理科の平均正答率は大阪府と比較して、上回ることができた。国語科・社会科・英語科では、大阪府と比較して、下回った。

＜課題＞

国語科では、「情報の扱い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」の領域、「思考・判断・表現」の観点、問題形式では、「選択式」「記述式」に課題がある。

社会科では、「短答式」の問題形式以外のすべての領域・観点・問題形式に課題がある。

数学科では、「図形」の領域で課題がある。

理科では、「記述式」の問題形式で課題がある。

英語科では、「読むこと」「書くこと」の領域、「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点、特に「短答式」を含むすべての問題形式に課題がある。

○中学生チャレンジテスト(1年生)・中学生チャレンジテストplus

＜成果＞

平均正答率は、大阪府と比較して国語科は上回ったが、数学科・英語科は下回った。

社会科では、大阪市を上回った。理科では、大阪市をわずかに下回った。

＜課題＞

国語科では、すべての領域・観点・問題形式において大阪府を上回った。

社会科では、「活用」の内容、「世界の姿」「世界各地の人々の生活と環境」「古墳時代まで」の各領域、「思考・判断・表現」の観点に課題がある。

数学科では、「図形」「関数」の領域、「思考・判断・表現」の観点、「選択式」「短答式」の問題形式に課題がある。

理科では、「基礎」の内容、「身近な生物の観察」「動物の分類」「光の性質」「力の性質」の各領域、「知識・技能」の観点に課題がある。

英語科では、「聞くこと」以外のすべての領域・観点・問題形式で課題がある。

○大阪市英語力調査(GTEC)

・4技能ですべての領域で上回った。特に、「書くこと」の領域では、顕著な成果を上げた。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において

＜成果＞

男子では、全国・大阪市と比較して、すべての種目・体力合計点において下回った。女子では、全国・大阪市と比較して、すべての種目・体力合計点において上回った。

＜課題＞

男子のすべての種目について、課題がある。

調査結果から

【今後に向けて】

○全国学力・学習状況調査

＜国語＞

- ・新聞記事のワークシートを家庭学習などに取り入れている。
- ・説明文や論説文などのあと、調べ学習をタブレットで行い、スライドを使つての発表に取り組ませる。
- ・プリントやこれ完学習などの家庭学習を引き続き行い、「読む」力を伸ばすように取り組ませる。
- ・文法の復習を小テストなどに取り入れていく。

＜数学＞

全領域において、基礎・基本の習得をすべての生徒ができるように、授業中の確認をしっかりしていき、生徒たちが相互に教えあうことで達成していきたい。

○中学生チャレンジテスト(3年生)

＜国語＞

- ・授業の中に心情や要約を書く短作文を取り入れる。
- ・200字作文を宿題などで取り組ませる。
- ・漢字テストの継続的な取り組み・単元ごとの語句の確認や語彙を増やすようなプリント学習の取り組みを行う。

＜社会＞

・社会科の得点分布を見ると、50点～74点あたりの生徒がいないので、社会の得意な生徒と苦手な生徒の差が激しくなっている。基本的な事項の理解が不十分と考えられるため、復習を頻繁に行っていく必要がある。

＜数学＞

- ・3学期には、全領域について反復復習の時間をとり、基礎基本の定着に努める。

＜理科＞

- ・「粒子」領域の平均点が大阪府平均を下回っているので、1,2年生の学習内容の復習を行い、基本的な内容を定着させる。
- ・「知識・技能」の観点の平均点も大阪府平均を下回っているため、重要語句や実験操作を確認し定着させる。

＜英語＞

- ・引き続き、毎時間の授業の予習・復習としての家庭学習を継続し意欲の向上をはかっていきたい。

○中学生チャレンジテスト(2年生)

＜国語＞

大阪府平均を下回ったが、数値自体は0.3ポイント程度であった。「情報の扱い方に関する項目」については、府平均も低いことから、問題が複雑であるとかんがえることもできる。「話すこと・聞くこと」に関しては少しずつ強化してきたが、教科書が「読むこと」に偏っている傾向も考慮したい。実際「読むこと」のポイントは上回っているため行ってきたことに効果があつたと考えられる。前提として「読むこと」があつての「書くこと」や「話すこと・聞くこと」であると思うので引き続き頑張りたい。

＜社会＞

二学期からカードを作り、各自が基本用語の習得できるように試みた。結果としては小テストによる成果はあるが、定着しない傾向にある。今後も、小テストによる定着を試みたい。

記述式に関しては、授業でも取り組んではいるが、適格な文章が書けない傾向にある。その解消のために、解答の書き方を示しつつ、再度テストを行い、模範解答を自分のものにできるように取り組みたい。

複合的な問題形式や複合問題に対しては、単元終了時に取り組んで改善を図る。

＜数学＞

苦手としていた「関数」分野での成長が成果であった。唯一、大阪府平均を下回っている「図形」分野が課題であるので繰り返し問題演習をさせ、全国学力・学習状況調査までに克服していく。

＜理科＞

実験結果などを考察させ、発表させる機会を増やすなどして、科学的な思考力や表現力を養う。

＜英語＞

4技能のうち、読解、記述に課題が感じられる。特に語彙力が不足していると感じられるため、帯活動としての単語テストや課題を通じて、語彙力をあげていく。

また問題慣れしていない生徒も少なくないため、授業で演習問題を行ったり、課題を通じて英語力を上げるように指導していく。

調査結果から

○中学生チャレンジテスト(1年生)・中学生チャレンジテストplus

〈国語〉

- ・漢字小テストや文法の復習などの継続的な取り組みを行う。
- ・作文等表現課題への取り組みに力を入れる。

〈社会〉

地理分野では気候、世界の人々のくらしや環境などの基礎的な単元、歴史分野では表などの資料を使った単元に課題がある。両者とも基礎的な演習問題を繰り返し行い、課題を克服していく。

〈数学〉

「数と式」以外の領域で課題があり、今後さらに基礎基本の理解・習熟に努めるとともに、思考力や表現力を高める課題も大切にしていきたい。

〈理科〉

基礎的な内容を定着させるために、小テストを繰り返し行うなどして学力の向上を図る。

〈英語〉

記述式の問題について、正答できない生徒が多かったため、問題演習の時間や課題を増やしていく。他の問題についても問題慣れしていない生徒が多いと感じられる。問題の要点を適切に理解し、正しい文や語句を書けるようにするために、英作文や練習問題に接する機会を増やすことにより、実力を上げるようにしていく。

○大阪市英語力調査(GTEC)

- ・引き続き、英作文や発表の機会を多く持ち、間違いをおそれずに取り組む環境を整えていきたい。特に、英作文では細かいアドバイスを継続して行っていきたい。

○全国体力・運動能力、運動習慣等調査において

昼休みに体育館・芝生広場を開放し、運動する機会を増やしていく。

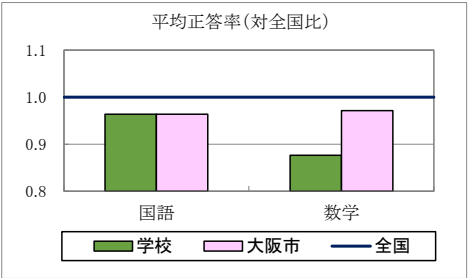


令和6年度 築港中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

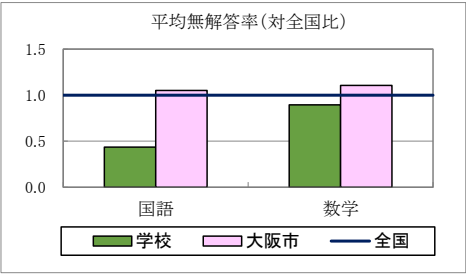
全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【 全 体 】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	56	46
大阪市	56	51
全国	58.1	52.5

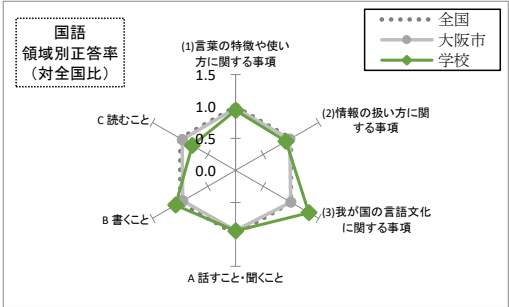
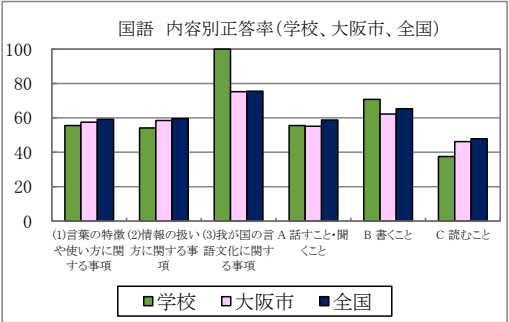


	平均無解答率(%)	
	国語	数学
学校	1.7	10.1
大阪市	4.1	12.5
全国	3.9	11.3



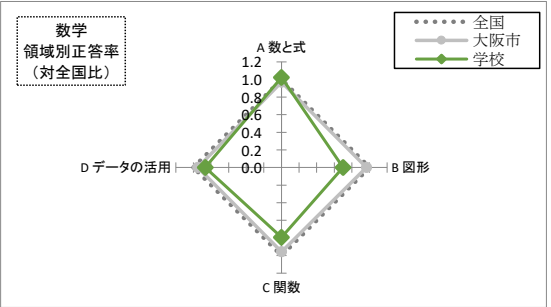
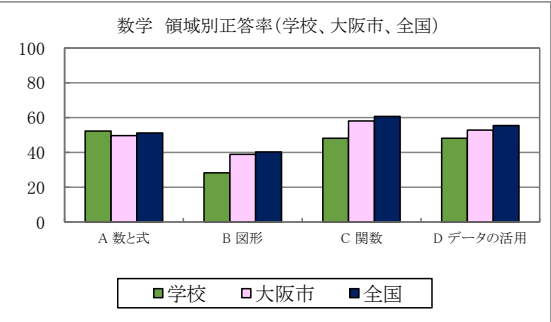
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	3	55.6	57.5	59.2
(2)情報の扱い方に 関する事項	2	54.2	58.5	59.6
(3)我が国の言語文化 に関する事項	1	100.0	75.3	75.6
A 話すこと・聞くこと	3	55.6	55.2	58.8
B 書くこと	2	70.8	62.2	65.3
C 読むこと	4	37.5	46.2	47.9



【 数 学 】

学習指導要領の 領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
#REF!	5	52.3	49.6	51.1
#REF!	3	28.2	38.9	40.3
#REF!	4	48.1	58.1	60.7
#REF!	4	48.1	52.8	55.5



# 令和6年度 築港中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

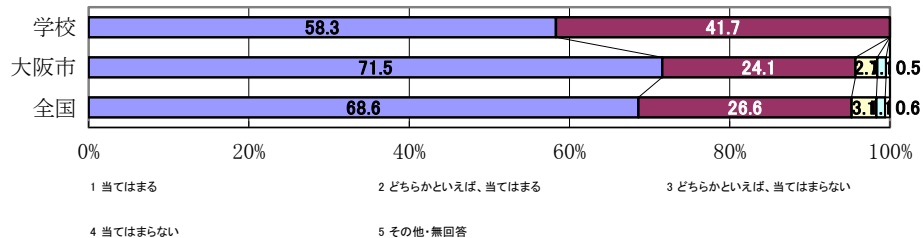
## 生徒質問より

1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号  
質問事項

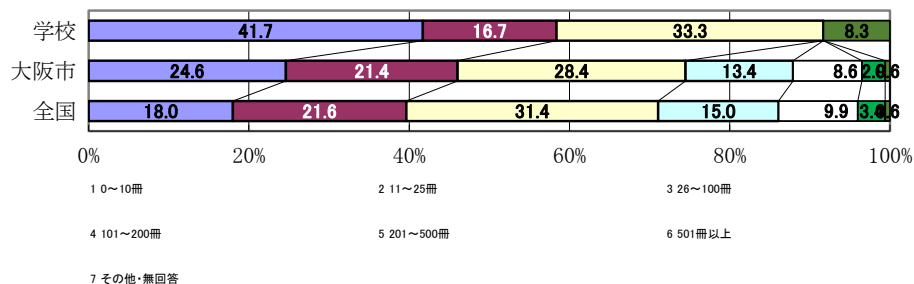
15

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



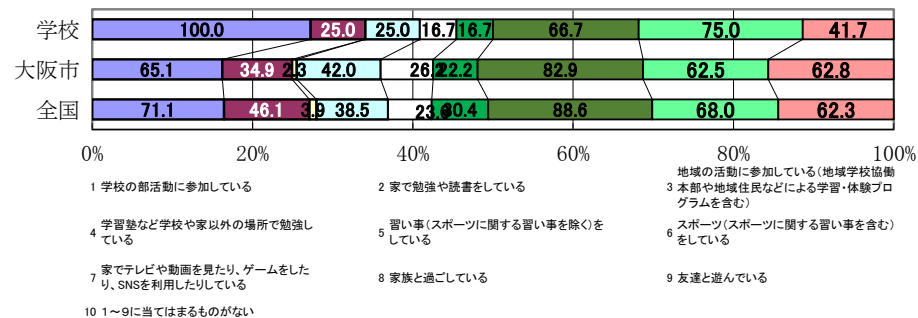
23

あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか(一般の雑誌、新聞、教科書は除く)



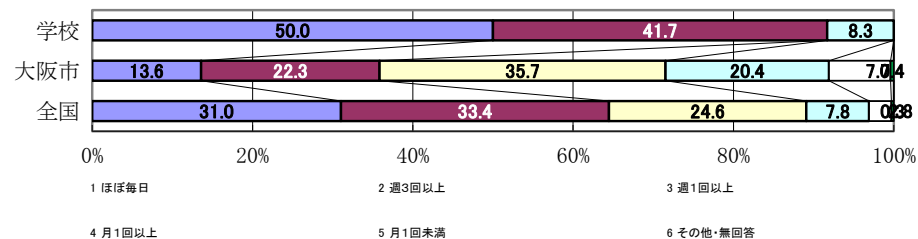
26

放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか(複数選択)



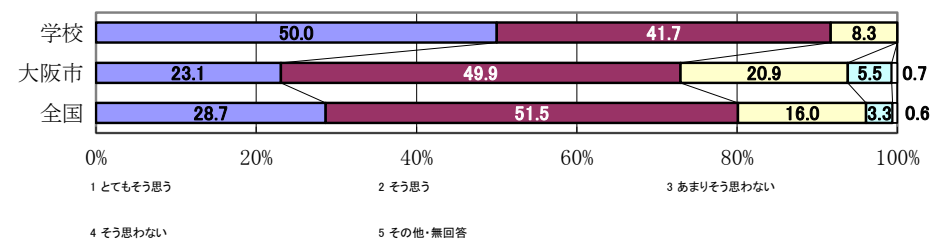
27

1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



70

(1、2年生のときの学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、次のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。)自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



令和6年度 築港中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

生徒質問より

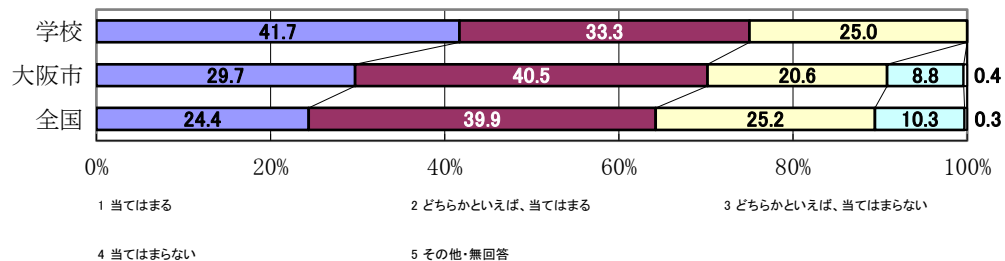
1 2 3 4 5 6 7 8

質問番号

質問事項

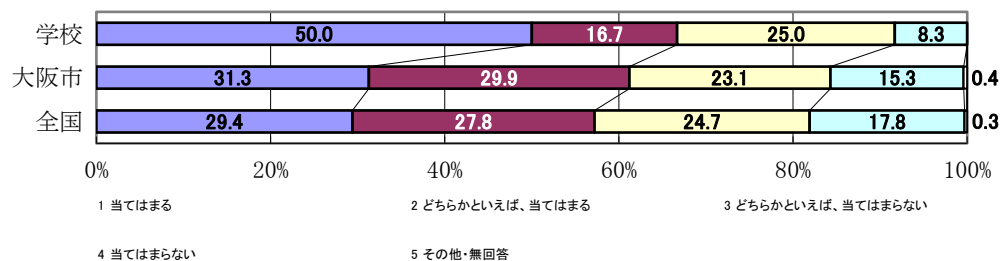
42

国語の勉強は好きですか



50

数学の勉強は好きですか





令和6年度 築港中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

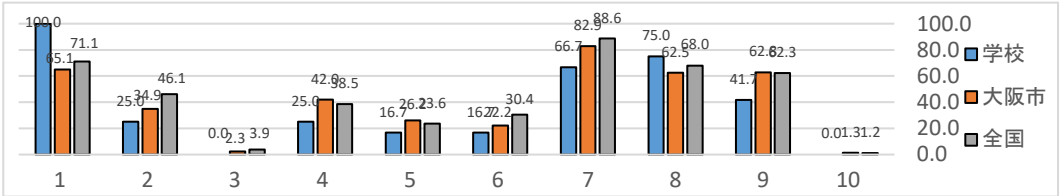
生徒質問より（26）

質問番号

質問事項

26

放課後や週末に何を  
して過ごすことが多い  
ですか(複数選択)



1 学校の部活動に参加している

2 家で勉強や読書をしている

地域の活動に参加している(地域学  
校協働本部や地域住民などによる  
学習・体験プログラムを含む)

4 学習塾など学校や家以外の場所で  
勉強している

5 習い事(スポーツに関する習い事を  
除く)をしている

6 スポーツ(スポーツに関する習い事  
を含む)をしている

7 家でテレビや動画を見たり、ゲーム  
をしたり、SNSを利用したりしている

8 家族と過ごしている

9 友達と遊んでいる

10 1～9に当てはまるものがない

# 令和6年度 築港中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

## 学校質問より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

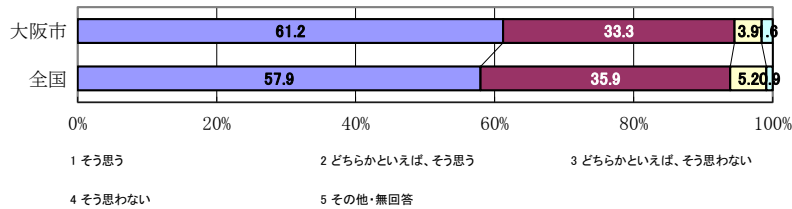
質問番号

質問事項

7

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

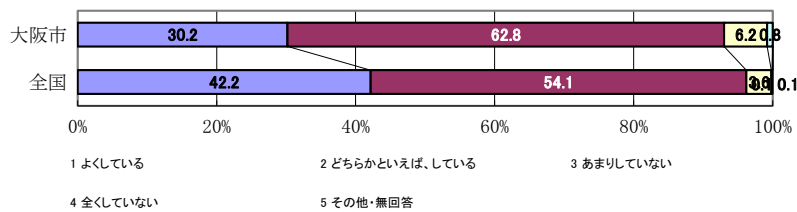
学校 「そう思う」を選択



39

調査対象学年の生徒に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか

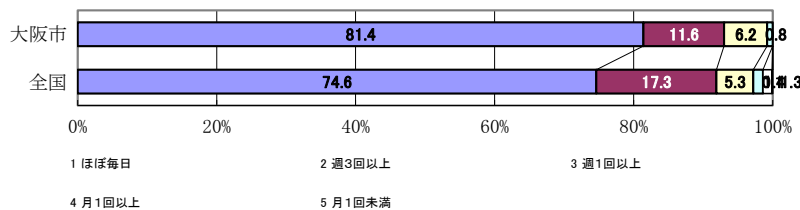
学校 「よくしている」を選択



57

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

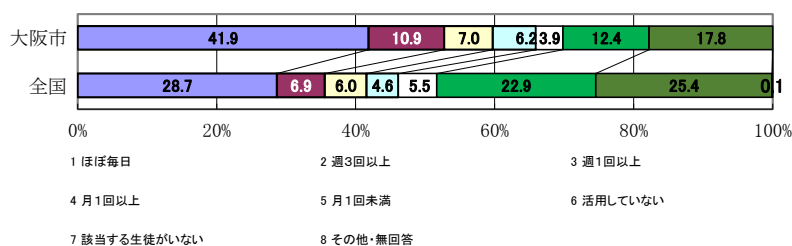
学校 「ほぼ毎日」を選択



69.2

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(2)希望する不登校生徒に対する授業配信

学校 「ほぼ毎日」を選択



74

コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか

学校 「そう思う」を選択

